

～和室を分けることで用途の個別化を～

四季は自然の移り変わりだけでなく、人そのものにも映し出される。それは外気と触れる開放的な空間での人とコミュニケーションの中で生まれる。そのコミュニケーションをとるのに1番有効なのは和室だろう。私は今回、和室にしかない長所に目をつけ、洋風との共生、また1階の和室は日常使い、2階の和室は家族と外で寝ながら星が見られるという非日常な生活をテーマに行う。

1、 客室としての利用

和室を客間として利用するメリットは、直接畳に座ることができる点、長時間座っても疲れない点、またそれによって人と人との距離が近くなる点。また家具が少ないため使い方が多様な点。

2、 食事

座る姿勢が多様。畳に直接座り横並びになることで、机に座るよりも人との距離が近くなる。また目の前での調理は食欲を掻き立てる。

3、 睡眠

ベッドと違い場所を取らない。片付けが容易。

家の外に幅1畳という細い和室

家の外に和室を置くことの利点は家に上がらなくても和室に行くことができる点、また壁に置くことができないものを畳の周辺に置ける点。コミュニケーションを取るにおいて、一人一人を家にあげると、会話の輪が少人数に限られてしまったり、家の人の手間にもなってしまったりする。また地面がすぐそこにあることで、移動式の囲が裏や七輪、机を設置することが可能に。しかしこの和室は家にくっついている為、防犯やプライバシーの面を考え、家と和室の間には鍵付きの戸を。さらに一番プライバシーの保護が要求される睡眠を2階にすることで1階をより開放的に。直線的な形にすることで複数の人が同時に腰をかけることができる。また1つ区切りをつけることで、子供と大人や、遊びと食事と分けることができる。

～1階で遊んで食べて2階で寝る～

縁側のない線の和室

畳を湿気から守る

今まで和室と外との間に縁側があったのは雨などで湿度が上がり、畳にカビがきたりしないためだろう。しかし、縁側よりも畳の方が根付く心も良く、より外との空間に近づけることが出来る。従って私は、畳を雨から守る方法を考えた。

1.湿度調整ファン

畳の下の空気が循環していると湿度計を置き、一定値を超えたらファンが回る仕組み。電力源は2階の屋根に置いた太陽光パネル。今回の地域は比較的降水量が少ないため十分に可能だが、降水量が多いところは降った雨を集めて水車を回し、雨の日でも発電できるようにする。

2.軒・鼻隠しを延ばす

軒が建ぺい率に加工しないように最大限伸ばし、鼻隠しをつけることで雨が侵入するのを防ぐことができる。しかし軒を延ばすことで必要以上に採光が減ってしまう恐れがあるため、軒を薄い緑のガラスに変えることで明るくなり、それを2階の欄干からワイヤーで引っ張ることで強度が増す。また風が強く、雨が入りそうな時は雨戸を閉めて対策する。

3.スライド式畳カバー

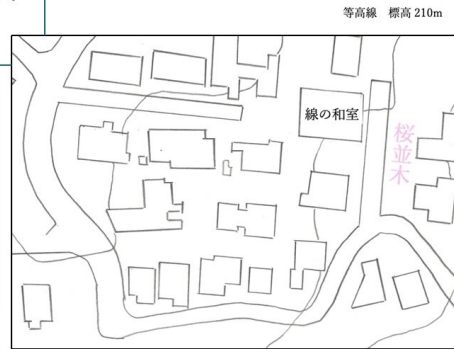
2階の屋根の縁側の部分は雨に降られやすいので雨に降られないようにスライド式でカバーできる。また板の上に降った雨は横の溝を伝って外へ流される。

移動式 かまど・囲炉裏・火鉢・水瓶・机でご飯を

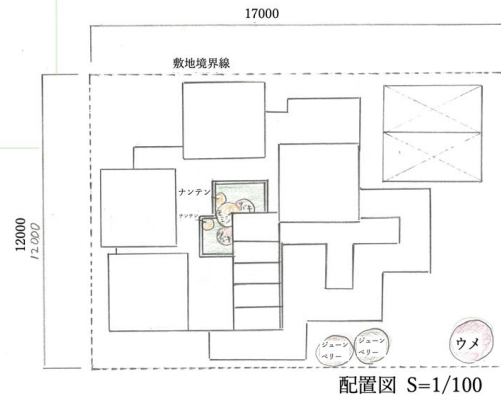
上の図に記載した縁路のような穴を使って移動させる。そうすることで適宜は広い空間を使うことができ、場合によっては使い分けられる。砂が穴に入るようであれば穴を埋めたり砂は穴を埋めておく。

3×3×3の基礎ブロック構造

洋式な所はほとんどを1辺が3mの立方体で構成されている。そうすることで施工の簡易化だけでなく、住んでいる人に合わせて増築する事ができるようにする。



周辺環境



道路

周辺環境

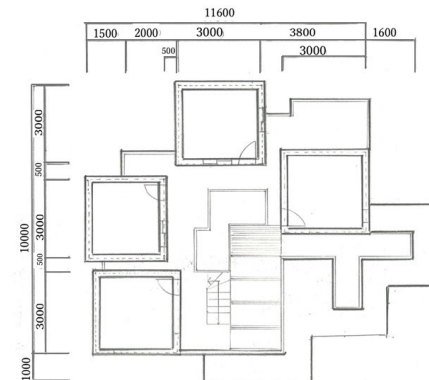
兵庫県西宮市甲陽園目神山町
気候：瀬戸内海式気候
→降水量小
都市計画：第一種低層住居専用地域
山上なので街を眺望できる。
山上の休憩場所に。
住宅が密集していないためプライバシーが守られやすい。

面積表

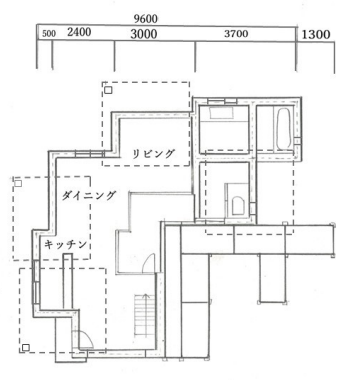
敷地面積 204.0 m²
建築面積 74.3 m²
1階面積 60.2 m²
2階面積 74.3 m²
延べ床面積 134.5 m²
建蔽率 29.5 %
容積率 66.0 %

家族構成

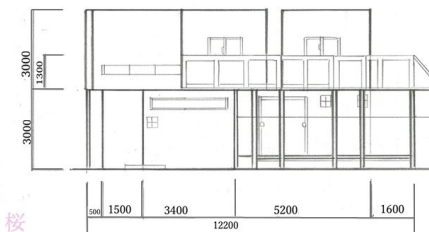
父 (50) , 母 (48) , 姉 (18) , 弟 (10)
構造
木造+RC造



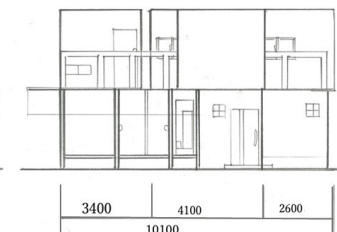
2階 平面図 S=1/100



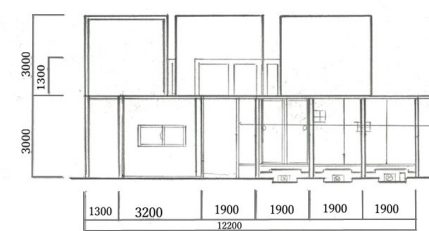
1階 平面図 S=1/100



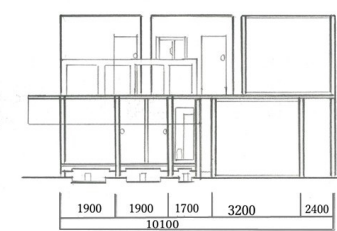
南 立面図 S=1/100



東 立面図 S=1/100



東-西 断面図 S=1/100



北-南 断面図 S=1/100

